

22年度予算で重点配分

子育て環境が大きく前進

公明党横浜市会議員団

仁田まさとし

平成22年度の予算などを
審議する市会第1回定例会
が2月16日から3月26日ま
で行われました。私も2月
24日の予算代表質疑で公明
党横浜市会議員団を代表し
て市政運営の基本方針など
を質問しました。

待機児童解消へ

22年度予算は一般会計が
5年ぶりのマイナスとなる
中、私がこれまで拡充を主
張してきた妊婦健診費用助
成に加え、保育所待機児童
の解消、産科・小児科医療
の充実などの事業に予算が
重点配分され、子育て環境
が大きく前進しました。

市は保育所待機児童の解
消を目指して、この6年間
で1万2千人の定員増を図
ってきました。保育所の数
は増えましたが、地域や年
齢によつては定員割れの保
育所もあります。そこで、
私は保育所運営補助金や利
用者への情報提供のあり方
などを提言してきました。

市には昨年10月時点で約
2400人の待機児童がい
ます。22年度は保育所新設
や増改築、送迎ステーション
の設置などで21003人
の定員増となります。

小児救急
電話相談が延長

私たちの提案で始まった
小児救急電話相談(☎04
5・201・1174)の
受付時間がこれまでの24時
までから朝8時までに延長
され、オペレーターも倍増
することになりました。

今年国会の全会一致を
経て制定された「国民読書
年」です。読書活動をさら
に充実させ、新たな取り組
みを推進すべきと代表質疑
の中で主張しました。

子どもの読書を推進

これに対し田村幸久教育
長(当時)は、今年10月最
終週から予定されている
「秋の読書週間」に合わせ
目指して活動していきます。

全国で介護総点検

公明党は昨年11月から12
月に「介護総点検」を全国
で実施しました。その結果、
介護保険制度をあまり知ら
ない人が南区でも30%いる
ことや介護を受けたい場所
で入所系介護施設を望む人
が38%、自宅を望む人が45
%と南区では自宅を希望す
る傾向も分かりました。

特養ホームなど整備

22年度は特別養護老人ホ
ームや身近な地域で24時
間、365日利用できる小
規模多機能型居宅介護事業
所を整備していきます。



仁田まさとし プロフィール
■都市経営・行政運営調整委員会副委員長
■安全安心都市特別委員会委員
■公明党横浜市会議員団団長
◇施政方針は「大胆に挑戦、誠実に実現」
ホームページ <http://www.nitta-m.jp/>

え、私は団塊の世代が75歳
を迎える平成37年に向け、
介護施設を倍増、特定施設
やグループホームを3倍に
増やす必要があると考え、
代表質疑で主張しました。